



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

あんず通信バックナンバーは
クリニックホームページからご覧
いただけます。
<https://ssn-clinic.net/>

【感染症だより】

～溶連菌感染症について～

溶連菌は毎年季節問わずに学校や保育園などで流行しますが、飛沫や接触によって感染します。通常は2～5日間の潜伏期の後、急に38℃以上の発熱や咽頭痛、莓状の舌、首のリンパ腺の腫れなどの症状がみられます。嘔気や腹痛を伴うこともしばしばあります。めったに重症化することはありませんが、高熱がなかなか下がらない場合、肺炎や髄膜炎、敗血症やリウマチ熱などに至ることがあります。治療は抗生剤でほとんどの方が改善します。発病から10日後くらいに稀に急性腎炎（血尿、むくみ）が認められることがありますので、当院では念のため回復後に検尿を実施しています。

～新型コロナウイルスについて～

東京都では4度目の緊急事態措置が8月31日まで延長になりました。直近6月と7月の東京都の状況をみてみますと、デルタ株が増加し、PCR陽性者数と重症者数が増加しています。40～50代の方の入院数が増えているものの、回復力があるため全体の死亡数は少なくなっています。厚労省は今月、感染症法の見直しに着手しました。今まで指定感染症に指定されていたコロナウイルスを、季節性インフルエンザ程度の対応にするという検討です。これは昨年から言われ続けていることですが、指定を見直すことで医療逼迫の改善が見込まれています。

～新型コロナワクチン副反応について～

8月4日厚労省の発表で、因果関係不明ですがワクチン接種後912名の死亡事例と3338名の重篤な副反応事例が報告されました。この死亡数は、毎年行われているインフルエンザワクチン副反応死亡数の数百倍です。我が国で小児の接種はまだ本格化していませんが、12歳から19歳の接種後すでに重篤な副反応が17例報告されています。

表：7月しみず小児科・内科クリニックで
診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌	197
2	胃腸炎	79
3	RSウイルス	27
4	伝染性膿痂疹(ピピ)	6
5	突発性発疹炎	5
6	アデノウイルス咽頭炎	2
6	手足口病	2
8	おたふくかぜ	1

※コロナ流行中、当院では感染症検査は防護着用し必要最低限実施しています。

★ 夏休みのお知らせ ★

下記の期間は夏休みとなります。ご不便をおかけしますが何卒宜しくお願い致します。

病児保育室あんず：8月14～22日

しみずクリニック：8月15～22日

★8月23日から通常どおりとなります

～～あんずからのお知らせとお願い～～

★**空き状況**をWebで確認出来るようになってきました。しみず小児科・内科クリニックの予約ページからホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。

★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

文責：清水マリ子

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

